

傷病者とのコミュニケーション

〔第5回〕「認知症老人」

講師 高田 勝也

(釧路北部消防事務組合
鶴居消防署)

1. はじめに

釧路北部消防事務組合鶴居消防署の高田と申します。シリーズ第5回目「認知症老人」を担当させていただきます。認知症というと、徘徊や妄想、不潔行為などがクローズアップされますが、このような症状は病気がかなり進んでから現れます。徘徊し名前、住所や電話番号の記憶もなくなり身元確認に苦渋し、主訴も聞きだすことができなかつた…このような経験をされた救急隊員は、そう多くないと思います。つまり、症状が進行している方は家族や施設の方にフォローされていることが多いということです。したがって発症状況、事故概要、ADL（日常生活動作）、既往症など有用な情報を得るためには家族や施設の方など、介護者とのコミュニケーションも必要となります。その一方で、認知症の傷病者からしか得られないバイタルサインや身体所見の観察も救急活動上、必要不可欠であります。

今回は、いくつかの事例などを紹介しながら「認知症老人」とのコミュニケーションについて述べたいと思います。

2. 認知症とは

認知症とは、生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで日常生活・社会生活を営めない状態をいいます。かつて「痴呆」と呼ばれていましたが、2004年に厚生労働省の用語検討会によって「認知症」への言い換え報告がまとめられ、2007年頃までに言い換えがなされました。しかし現在も「痴呆」「ボケ」などと表現されることもあります。

認知症の最大の危険因子は加齢で、65歳～69歳での有病率は1.5%ですが以後5歳ごとに倍増し、85歳では27%に達し（図1）、2012年の認知症患者数は300万人を超えていると言われています。今後、高齢者人口の増加とともに増え続け、2020年には400万人を超えると推計されています（図2）。

1980年代まで脳血管性が最も多いとされていましたが、近年の研究ではアルツハイマー型が最も多いと言われてい

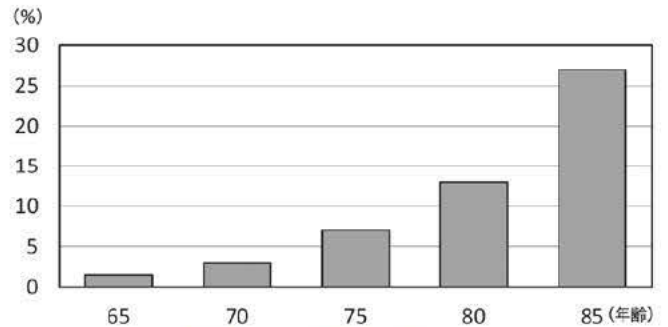


図1 年齢別認知症有病率

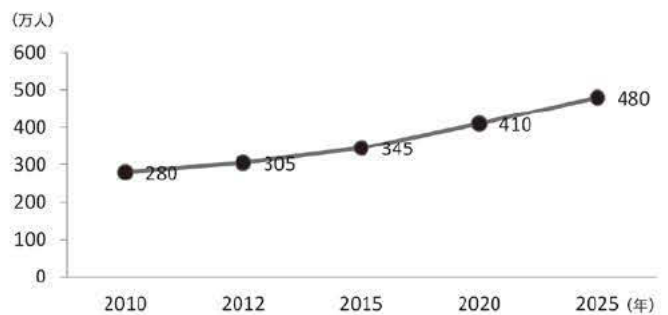


図2 認知症高齢者の将来推計

ます。脳血管性は男性に多く、アルツハイマー型は女性に多いとされています。最近、映画やドラマの題材となっています若年性認知症については、18歳以降44歳までに発症するものを若年性認知症、45歳から64歳で発症するものを初老期認知症と呼び、我が国の患者数は3万人以上と推計されています。

認知症患者の驚くべき数字は85歳以上の4人に1以上が認知症に罹患していることで、高齢化が進む我が国では患者数が増加し認知症患者の救急出動も増加することが予想されます。

3. 事例

(1) 興奮状態

80歳代男性

本人からの通報「頭が痛い。ふらついてどうにもならない。なんとかしてくれ」

興奮した感じで詳しい状況を聞き出そうとしても、支離滅裂な話。なんとか現場を特定し出動。現場到着してみる

と、傷病者は居間に立位の状態で、どこかに電話を掛けようとしていたが繋がらず意味不明な言動。服装は、汚れた長袖シャツと股引姿（写真1）。



写真1 傷病者は居間に立位の状態で、どこかに電話を掛けようとしていたが繋がらず意味不明な言動

救急隊「〇〇さん、どうしたの？頭が痛いの？」

傷病者「どうもこうもない！頭が痛いやら、ふらつくやら…病院に連れて行ってくれ！」

救急隊「いつからなの？」

傷病者「なんだか良くわからない…薬のんでも、さっぱり良くならない」

※傷病者は私が以前からよく知る方でしたが、いつもとは明らかに違い、私の名前も出てこない。見当識障害あり。やや興奮状態。

救急隊「ばあちゃんは？誰もいないの」

傷病者「知らん…。」

※救急車が自分の家に来たのに、ばあちゃんはどうしたのか？

観察を隊員に任せ、ばあちゃんを探してみると、家の影で様子を伺って困ったような様子。

救急隊「ばあちゃん、どうした？じいちゃん頭が痛いわって救急車呼んできたよ！」

家族1「なんだか最近変なんだわ…訳のわからなことばかり言って、私がなんか言えば怒鳴って…叩かれそうで怖くて近くに寄れないんだ。夜遅くにどっか出かけて行ったり…困っているんだ」

救急隊「病院は？どこか掛かっているの？」

家族1「いつだか自分でどっか行ったみたいだけど…なんでもないって言われたみたいだけど…どうしたらいいべ」

※そんなやりとり中に、興奮した息子さんが登場。

家族2「最近どうにもなんないんだ！ポケておかしくなってるんだ。言うこと聞かないし…どこでもいいから病院に突っ込んでくれ！」

救急隊「わかりました。」「いつものお父さんと違うのは、私にもわかります。」「頭の病気かもしれませんが、認知症だとしても検査が必要です。搬送先の病院を決めるのに、

少し詳しく経過を教えてくださいませんか？」

ここでの対応のポイントは…。

- ① 傷病者と家族を無理に引き合わせないこと（写真2）。
- ② 傷病者に対応した隊員と家族と対応した隊員との情報を共有すること。
- ③ 興奮している家族を落ち着かせ、有用な情報を聞き出すこと。



写真2 家族が興奮している場合は傷病者とは無理に引き合わせないこと

通常の現場では、家族には傷病者の傍に居てもらい「経過」「発症状況」「既往症」などの情報を得ることでスムーズな活動になりますが、興奮した状態の傷病者と傷病者の言動に恐れている家族を引き合わせても、傷病者の興奮を煽り、家族の精神状態を不安にさせ、状況把握が困難になり正常なバイタルサインの測定が困難になります。

また、傷病者を救急車に収容した際に、一時的に機関員に傷病者の対応をお願いするなど傷病者にわからないように隊員間の情報を共有したり傷病者への対応を協議し（写真3）、搬送先の病院への情報伝達も現場出発前に救急車の外での連絡、搬送中であれば助手席に移動して連絡する（写真4）などの工夫も必要と思います。

この傷病者は、認知症と診断されていた訳ではありませんが、認知症の介護は想像以上に大変で介護者が興奮状態であったり、精神的に不安定だったりすることもあります。乱暴な言葉を吐いても、救急隊には現在の状態からの好転を期待しています。そのためにも検査、治療のために情報



写真3 傷病者にわからないように隊員間の情報共有や対応の協議をする



写真4 搬送先の病院への情報伝達も救急車外や助手席からと工夫する

が必要であることを伝えることで協力者となってもらえると思います。

(2) 高齢者夫婦

80歳代男性。

消防署前庭で作業中、近くの交差点で乗用車が異常なエンジン音。

交差点で乗用車は停止したままで、走行できない状態？

運転席には高齢のおじいちゃん (写真5)。



写真5 運転席には高齢のおじいちゃん

本人から住所と氏名を聴取し、体調不良はないというものとの曖昧な返答を繰返し、見当識障害があり。このおじいちゃんが車を運転したら危険としか思えない…。体調不良はないと言うけど…運転中に異変？

※この時点で救急隊スタンバイ。

おじいちゃんに代わって車を運転し交差点から移動するも車は全く異常なし。

救急隊「〇〇さん、車壊れてないですよ。運転中どこか具合悪くなった？」

傷病者「いやあ…。別に…。」

救急隊「今、どこにいくところだったの？」

傷病者「…………。」

おじいちゃんを助手席に乗せて、お宅を訪ねてみると、しっかりとしたおばあちゃんが応対してくれました。おじいちゃんの様子を確認してもらっても、普段と特別変わらな

いとのことでした。そこへ近所の方が心配して出てきたので、様子をと尋ねてみると、最近、車庫の出し入れにてこずっていたようで、この日も2時間くらい前から車に乗り込んでおり、自宅から車で300m程の移動に1時間以上掛かったことがわかりました。保健師に立ち会いを求め、おじいちゃんの様子を確認してもらったところ、普段とは明らかに違うとのことでした。おじいちゃんとおばあちゃんに今日のおじいちゃんの様子を整理して話して「なにか病気があったりしたら困るから病院へ行って検査してみましょう」と保健師に説明してもらい同意を得て病院へ搬送となりました。

ここでの対応のポイントは…。

- ① 高齢者の異変は見逃さないこと。
- ② 高齢者夫婦では、お互いの異変に気付かないこともあり近所の方や保健師などの協力者を求めること (写真6)。
交差点で立往生したまま放置した場合、突然急発進したり暴走したり無関係な人を巻き込む重大な事故を引き起こしたかもしれません。救急要請に限らず周囲の異変に目配りし、特に高齢者の行動には注意を払い異変を見逃さないよう心掛けがましよう。

このケースは、毎日一緒に生活する傷病者の妻が異変に気づいていないというものでした。高齢者は健常者であっても状況把握が困難な場合があります。傷病者や家族の普段の状況を知る第三者や地域の病院、自治体の福祉関係者などに協力を求めることも必要です。



写真6 高齢者夫婦ではお互いの異変に気付かないこともある

(3) 失語

介護老人保健施設から救急搬送した80歳代の男性。傷病者は、病室で両手手袋をはめベッドの手すりに抑制されていました。酸素投与が必要であったためSpO₂の測定をしたく抑制を解いてもらいました。一見コミュニケーションが取れないかと思いましたが…。「〇〇さん、血液の中の酸素を見るのに指に器具を付けさせてもらいますよ」と、大きめの声で柔らかい口調で伝えると、頷いて同意してくれ問題なくSpO₂を測定でき、同様に酸素投与も問題なくできました。救急車に収容してから、心電図をモニターす